

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	S.I	学部・学科	データサイエンス学部データサイエンス学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティ大学		
プログラム名	General English Course		
期 間	2025 年 8 月 16 日～2025 年 9 月 14 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

今回の留学で受講した授業は、1 週間で教科書の 1 セクションを学び、金曜日にテストを行うという形式で進められた。各セクションには文法・語彙・発音といったテーマがあり、それに関連するリーディング、リスニング、ライティングも組み込まれていた。私が参加した期間には、スポーツ、教育、家、ショッピングといった身近な題材を扱い、仮定法や時制、過去完了などの文法事項を学習した。日本で一度は触れた内容も多かったが、授業を通じて実際に使う場面を想像しながら学ぶことで、知識が整理され、より「使える英語」に近づいたと感じた。

授業中には、文法や語彙の説明だけでなく、クラスメイトとのペアワークやグループディスカッションが多く取り入れられていた。例えば、スポーツをテーマとした回ではお互いの好きなスポーツについて話し合い、新しく学んだ表現を実際に使うことが求められた。また、ショッピングを扱った授業では、買い物の場面を想定したロールプレイを行い、実際の会話形式で練習することができた。こうした活動は、単なる知識の暗記にとどまらず、「英語を使って伝える」経験につながり、大変印象的であった。

授業後の課題は比較的少なく、その日の学習内容の復習や翌日のディスカッション準備が中心であったため、無理なく継続することができた。週末のテストでは語彙・文法・ライティング・リスニングを総合的に復習することができ、放課後の学習習慣づけにもつながった。結果として、4 週間を通じて自分なりに手応えのある成果を得ることができたと感じている。

また、授業以外の生活面でも多くの学びがあった。現地での買い物や食事の際には、自分の英語で意志を伝えなければならず、最初は戸惑う場面も多かったが、次第に慣れていき、日常会話にも少しずつ自信を持てるようになった。ホストファミリーとの交流を通して、家庭ごとの食習慣や生活リズムの違いにも触れることができ、異文化を肌で体験する貴重な機会となった。

全体を通して、今回の留学はこれまで日本で学んできた知識を実際のコミュニケーションにつなげる架け橋のような役割を果たしてくれた。授業で得た知識に加えて、生活を通じて多様な考え方や価値観に触れることで、自分の視野を広げることができたと感じてい

る。この経験を今後の学業や生活に生かし、さらに英語力を高めていきたい。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

今回の授業を通して、単なる文法や語彙の習得だけでなく、実際のコミュニケーションにつながる知識を得られたと感じている。まず文法については、日本ですでに学んでいた仮定法や過去完了などを改めて学び、知識の整理や実践的な使用への理解が深まった。また、英語を英語で学ぶという点において、日本で学んでいた時よりもニュアンス的な部分も具体的に理解することができたと感じている。

語彙の学習では、アイルランドで使われるイギリス英語とアメリカ英語の違いにも説明があり、興味深かった。例えば「shopping center」と「shopping mall」のように、同じ意味でも異なる言い方を知ることができた。また、学んでいたテーマは日常生活につながるものが多くあったため、学んだ単語をすぐに実際の会話で使うこともでき、語彙の定着にもつながったと思う。

さらに、発音の部分でも知識を得ることができた。特に-ed の発音が前の音が有声音か無声音かによって発音が変化するというルールを知り、単語を正確に発音することの重要性を意識づけることができたと思う。これまでは文法や語彙の部分に学習が偏っていたが、これからは発音の学習も重要視したいと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分自身、リーディングを中心とするいわゆる「受験英語」で学んできた部分にはある程度自信があったが、スピーキングやライティングには不安があり、普段の会話も含めてうまく対応できるか心配であった。しかし、実際に授業を受け、さらに現地で生活を重ねる中で、自分の拙い英語でもどうにか言いたいことを伝えられると実感できるようになり、その部分は自信になった。

また、これまでの学習は座学的な側面が多く、知識として理解していても実際に使う機会が少なかったが、今回の経験を通じて「伝えるための英語力」の重要性を強く感じた。特に発音や表現のニュアンスといった、実際の会話で求められる力が不足していると感じ、今後はその部分を意識して伸ばしていきたいと考えるようになった。不安を抱いていた自分から、実際に使いながら学ぶ姿勢へと気持ちが変わったことが、今回最も大きな成果であると感じている。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通じて学んだ英語力をさらに深めるため、今後も継続的に学習を続けたいと考えている。特に、英語を話せるようになるには実際に使う機会を増やすことが重要であると強く感じたため、時間に余裕ができたならオンライン英会話などにも挑戦してみたい。また、授業だけでなく現地での生活を通して、日本とは異なる生活習慣や考え方に触れることができ、多様な価値観を持つことの大切さを実感した。これからの学業や日常生活においても、今回得た英語力を積極的に活かすとともに、多様性を尊重し柔軟な視点を持ちながら取り組んでいきたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	M.F	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティーユニバーシティ		
プログラム名	General English Course		
期 間	2025 年 8 月 16 日～ 2025 年 9 月 14 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

レベルごとに使う教科書が異なり、基本的に教科書の内容に沿って授業が進んでいく。自分のクラスでは英語で文法の勉強を行ったり、そのほかにもリーディング、リスニング、ボキャブラリーなど様々なことを学んだ。毎週金曜日に一週間のまとめテストがあり、そこで点数が成績に加味される。課題は取り組んでいる章によって内容が異なり、教育について学んでいるときは世界の面白い教育システムについて調べてくることもあった。しかし、基本的には文法が多かったように思う。課題が出ないクラスもあった。文法についての授業はとても面白く感じ、日本と違う点については授業中にスマホを使ってゲームを行いながら学ぶことだ。チームを組んで正解を選んだら敵を倒せたり、表彰台に登れたりできたりしたので、楽しみながら文法を学ぶことができたと思う。また、リスニングでも実際に使われている英語を聞き取って選択するものだったので、ネイティブが使う表現を授業中に学ぶことができた。外国特有の自由に発言できる雰囲気も良く、たとえ答えが間違っているとしても否定されない空気間があったのは良いと思う。また、ライティングも先生が自分の回答を返すときに、なぜ間違っているのか説明してから返していたのが良かったと思う。先生自体もネイティブスピーカーなので、授業の内容に加えてアイルランドと比較して様々な知識を教えてくれたことが面白かった。テスト前には、復習授業を行ってくれたり、不安なところを事前に生徒に聞いて前日は復習に授業を当ててくれたところがすごくありがたかった。そして、人形を投げて、キャッチした人が発表するシステムも初めて見たので興味深かった。しかし、普段発表に奥手な自分も失敗を恐れず発表できたことは良いことだと思う。個人で作業することより、グループで作業することが多かったと思う。日本人同士でも日本語を使っているはいけなかったのも、自分の考えを英語で相手に伝える訓練が毎授業ごとにできたのはとても良かった。アクティブな授業が多かったのも、習ったことをアウトプットする時間が日本より多く感じることができ、良いと思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

過去形 ed の詳しい発音について学んだときは、とても面白いと感じた。何気なく発音していた ed 形でも最後につく言葉によって発音が異なるのは知らなかったのでネイティブならではの授業で学ぶことができて良かったと思う。また、授業内容とアイルランドの文化を比較して進めてくれたということもあり、アイルランドの教育システムや家の形・スポーツなど学ぶことができたと思う。普段だったら聞き流してしまうようなことも、日常生活とリンクして教えることで記憶と結びつきやすく感じた。他にもライティングの授業では、英語で礼儀正しい文章を学ぶことができた。日本でも文章の形式があるように、外国でもビジネスで使うことができる文章のルールなどを学ぶことができたことは良かったと感じる。他にもイギリス英語やアメリカ英語など、同じものを表していても違う単語で表現されるのは日本では中々習わないことなので、実際に現地で体験することができて興味深かった。日本で曖昧だった英語の知識が、英語で授業を受けたことによって細かい違いまで学ぶことができたことが良かった。実際に英語を使う人でないとわからないニュアンスの違いや、同じ単語の意味でも状況によって使い分けたりすることも良く学べたと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、初めてすべて英語で授業を受けるため緊張や不安があった。しかし授業後は、先生の否定しない姿勢や、同じレベルごとに分けられているため非常にリラックスして授業を受けることができた。また、今までは自分から発言したり、質問をしたりすることはなかったが、しやすい雰囲気を作ってくれていたため、たくさん授業内で発言することができた。最後の一週間で風邪をひいてしまい声が出なかったため発言できなかったことがあったのだが、その期間がすごくもどかしく感じるくらい積極的に授業に参加することができていたと思う。そして、グループワークも多かったため休み時間に授業で同じグループだった人と情報共有をしたり、お菓子を食べ比べしてみたり、様々なコミュニケーションをとることができたのもリラックスできた要因の一つだと思う。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

留学で得た異文化理解力と語学力を、今後の心理学の学びに生かしていきたいと考えている。文化によって人の価値観や感情表現には違いがあることを実感し、多角的な視点から人の心を理解する重要性を再認識した。今後は、国際的な心理学研究や海外の文献にも積極的に触れ、学びを深めていこうと思う。将来的には、異文化理解を土台としたカウンセリングや国際協力の分野にも関心があり、留学経験をその第一歩として生かしていきたいと考えている。また、ホストファミリーとの定期的な連絡も取り、世界情勢についてより関心を持っていきたいと思う。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	F.S	学部・学科	国際教養学部 国際教養学科
学 年	1 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティーユニバーシティ		
プログラム名	General English Course		
期 間	2025 年 8 月 16 日～ 2025 年 9 月 14 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

渡航前に行われたテストを基に分けられたクラスで授業を受けた。授業は月～金曜日の 9:00～13:00 で、毎週金曜日にはテストが行われた。初回は自己紹介から始まり、1 週目は日本人 5 人、イタリア人 2 人、チリ人 1 人という少人数制だったため、活発なコミュニケーションを通して英語力を向上させることができた。先生や他の学生からは一人ひとりの発言に耳を傾ける姿勢が常に関心されたため、心地の良いクラスだった。課題は少なめで、文法、リーディング、単元にまつわる用語の穴埋めが数問あり、時々自分の意見や体験を書く課題もあった。3 週目からは担当の先生が変わったが、どちらの先生もフレンドリーで、最初の先生は生徒が自分の考えを英語で伝えることを重視しており、ペアワークをした後に、一人ずつ指名して意見を聞いていくか、自由に発言する形で、次の先生は難しい単語について私たちが身近に感じられるような例を挙げての説明や、アイルランドでの生活に役立つリアクションの取り方なども教えてくれた。2 週目以降は日本人からの留学生が増えたため、日本とアイルランドや単元に出てくる国や都市との比較も用いながら授業を進めてくれた。テストは 1 週間分の授業の振り返りだったので難易度はそこまで高くなかった。リスニングが会話の流れが速く、少し難しかったように感じる。授業はペアワークやグループディスカッションがメインで、教わる文法は中学高校で習うレベルだった。ゲームを用いて楽しく学ぶことができ、文法を学ぶ際にただ説明を受けるのではなく、カードを使って神経衰弱で遊びながら学んだ授業が特に印象に残っている。一文が前半と後半に分かれており、元の文を作れるようにペアを探したり、受け身について学ぶ単元では能動態と受動態のペアを作ったりして他の学生と英語でナチュラルなコミュニケーションを取りながら学習できたのが良い経験となった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

どの単語に、どの接頭辞と接尾辞がつくのか、今までははっきりと認識していなかったため、日常で使えるフレーズの具体例とセットで覚えられたことや、確信度を表す副詞の微妙な使い分けを、ネイティブの視点から学べたのが良かった。授業で扱う内容は環境問題やグローバル化、ビジネス、都市問題など多岐にわたるものであったため、今まで知らなかった様々な分野に関する用語が学べた。授業で単語を学習する際、授業内でも、他の日にも何度も意味を復習していたため、綴りと意味、発音、使うシーンをセットで定着できた。日本で英単語を学んでいたときは、テストのための暗記がメインで、リーディングでその単語が出てくると意味が分かるけれど自分で使うことはできていなかったため、授業で学んだ単語をホストファミリーとの会話や日常生活で使えたことが嬉しかった。ペアワークや先生に質問する際に意思疎通がうまくいかなかった際に、別の単語や表現で言い換えることで自分の考えをいくつかの方法で伝えられる力が身についた。言い換えを考える中で、日本語だと一つの言葉で表すところを英語ではいくつも表現方法があるというのを実感できたのが新鮮だった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

他国からは発言が積極的な留学生が多かったため、彼らに触発されて、自分も少しでも考えたことや疑問に感じたことがあれば、自信がなくても言うようになった。日本で英語の授業を受けていたときは、英語で何というか分からなかったらインターネットで調べていたが、まずは隣の席の人に聞いて、それでも解決できなかつたら先生に質問するという形で、この貴重な機会を無駄にしないように自分から行動できた。授業を受ける前は一ヶ月という期間は英語力を身につけるには短すぎると思っており、たしかに滞在中は、もっと長くいたいと思う日々ではあったが、英語しか話せないという環境の中では、この短期間でも特にリスニング力と英語でのコミュニケーション力は伸びたと実感している。留学前は、滞在中に日本人と関わるのはなるべく控えようと思っていたが、仲間であり、同時にライバルでもある存在がいたことは心強く、一緒に切磋琢磨することができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

この研修を通して、自分の英語がネイティブにも伝わるということが分かったことが何よりの財産となった。この先も、英語に触れることを継続していかないと、せっかく身についた力がだんだんと失われていってしまうと思うので、ネイティブの先生と話す機会を設けたいと思った。また、自分一人で英語を学んでも間違いに気づくことは難しいので、誰かに英語力を伸ばせるようサポートしてもらえ環境で学びたいと思った。また、英語で英語を学ぶことで、日本語訳をする過程を省略することや、難しい単元でも何が分からないのかを英語で考えることができるため、英語脳の精度を高めることに繋がると実感した。今後は日本語主体で英語を学ぶのではなく、難しい英語を簡単な英語で学ぶといったやり方で続けていきたい。

